

R7.8.12

第1号

通巻165号

学院通信

発行
金光学院
719-0111
岡山県浅口市
金光町大谷1486
TEL(0865)42-3115
FAX(0865)42-3114



聖蹟巡拝 (泉勝院)

自由で明るい神人の世界へ

学院長 大代信治



修行には厳しさや窮屈さのイメージがあります。学院の場合も実際に入学すると、あらゆることに決められた時間があり、細やかな作法や決まりごとがあります。今はまだ何もわからない中、分刻みで定められた日課に追い立てられ、手探りで動いているような時期でもあるでしょう。

このお道の信心は、安心や喜びの大きいものです。そういう信心を進めてきて、御用にお使いいただけようと願いを立てて学院に入学し、修行に取り組んでいるのです。それなのに、いきなりの厳しさや窮屈さに戸惑い、できないことの多い自分に焦ったり、愚痴や不満の出でくる自分に苦しんだりもするでしょう。

そうした中であって、修行目標として「神に心を向ける」(本科前期)、「神に心を向け、神の願いに生きる」(特科)と定めて取り組んでいきます。神様に心を向けながら、目をそらさずに自分の正体と向き合っていくのです。

学院では、本部広前の御取次を日に日に頂き、学院生も職員も本部広前の修行生として、教主金光様に神習い、教祖様のご信心を生活に現わすけいこを進めていきます。当初厳しさや窮屈さを感じた日課や作法によって、神様ごととして信心の道筋を頂き、これまでの自分を放しての生き方に導かれていきます。

教主金光様ご自身が時間を大切になさり、お出ましやお退け、ご祈念やお結界へのご出仕の時間をとても大切になさっています。そのお姿を拝して、神様との時間、親様が大切になさっていた時間へのみ思いが感じられ、神様や親様と共にあるあたたかい時間にされているように思われます。

厳しさや窮屈さがあつたとしても、日に日に修行に取り組むことで、このお道の豊かな安心と喜びが迫ってきて、ゆるぎない天地のみ働きと全教の祈りに包まれていることに改めて目覚めさせられるのです。修行への意欲が生まれ、こだわりや頑なな心が解き放されて、本当に自由で明るい神人の世界が開けてくるように思えます。

学院修行について

学院次長 秦 浩治

令和七年度の本科生七名は、五月十五日に入学し、「本部広前の修行生」として、日々教主金光様の御取次を頂き、十一月の修行生活を送ります。

入学してすぐの信行輔導期間では、昨年度の卒業生から五名の方が、OBとして学院の日課や基本作法の指導をしてくださり、世代も境遇も違う者同士が「本部広前の修行生」として、これから学院修行を進めていくための土台が培われました。そして、六月十五日には特科生八名が入学し、一カ月間、本科生とも切磋琢磨し、道の仲間としての絆を深め、七月十五日に全員揃って無事卒業しました。ここまで、それぞれがお互いを思い合い助け合って起こってくる問題と真剣に向き合いながら、本日、夏期在籍教会実習の出発式を迎えさせていただきました。

私が学院で御用をさせていただくようになって、「教師にとって大切なことは、神様を本当にありがたいと思う心と、人に本当に助かってほしいと思う心」という言葉を師匠から聞かせていただきました。この言葉は、私が学院卒業後、修行生として置いていた

くようになった時に、その教会の初代の教えとして聞かせていただいた言葉です。改めてそのことを聞かせていただき、目の前の問題にばかり目が行き、自身身の心のあり方が疎かになっていたことに気づかせていただきました。

学院生も入学前の環境から離れ、このご霊地で、日々たくさんの事柄に出会って、とまどいや不自由を感じること多いと思いますが、これまで経験で作り上げてきた自分の価値観やものさしと向き合う機会でもあります。



作法研修

を聞かせていただき、目の前の問題にばかり目が行き、自身身の心のあり方が疎かになっていたことに気づかせていただきました。



求道の日 (「覚」筆写)

そこから、「本部広前の修行生」としての生き方を見つけ、神様をありがたと思う心と人の助かりを願う心を育てていくことが学院修行での大切な中身となっていくと思います。

ここまで約三カ月の間、それぞれが日々の生活と向き合う中で、神様の働きに気づかせていただこうとする取り組みが進められていると感じます。暑さも寒さも厳しいところではありますが、天地の働きの中でそれぞれにかけられた願いを受け止めての修行成就を、ともに祈らせていただきたいと思います。

一日の信行内容

(時間)	(信行内容)
5:20	起床
5:40	参拝出発
6:00	本部広前御祈念・洒掃
7:30	朝食
8:30	朝礼
9:00	午前の課業
11:50	洒掃
12:30	昼食
13:30	午後の課業
15:20	参拝出発
15:40	本部広前御祈念・洒掃
16:40	お退けお見送り・洒掃
18:00	夕食
19:00	夜御祈念 自修・入浴
21:00	閉門
22:00	消灯

人事異動

- ・ 教団職員 棚橋信彦、五月七日付で主事に任命(総務部から異動)。
- ・ 教師 平川はるみ、五月七日付で臨時御用奉仕に任命。
- ・ 主事 山本道登、五月七日付で総務部へ異動。

講義科目・担当者

教会・布教科目		教団科目	教祖・教義科目		信修科目
礼典(祭詞)	礼典(祭式)	教団活動	教義	教祖	本教概説
教会活動(各種活動)	直信・先覚	教団史			
	結界取次	教制			
	安部 保子	三浦 明雄	須寄 元道	河崎 信示	大代 信治
田中 照彦	仁科 明日児	金原 光三	秦 浩治	佐藤 光貴	

「い」も「の」の歩み

■ 信行輔導期間

学院では、学院生活の基本日課を習得し、ここから始まる修行の土台を築くために十日間の信行輔導期間を設定している。前年度の卒業生である五名のOBから、奉仕・待命・炊事・洒掃を中心とした生活全般の指導を受けた。入学したての本科生は、一年間の修行を終えたOBの言動に意識を集中させ、基本日課や作法を習得することはもとより、「本部広前の修行生」としての在り方についても感じるものがあったようである。OBの懇切丁寧な指導により、本年度の学院修行を滞りなく始めることができた。御用に当たっ



OBによる生活指導

ていただいたOBの方々には改めて御礼を申し上げます。
本年度のOBは以下の通り。

(敬称略)

- 岸井 祐貴 (東京・新宿)
- 杉田 明信 (奈良・五条)
- 辻井 雄生 (和歌山・勝浦)
- 中村 志保 (北海道・稚内)
- 武部 天童 (兵庫・香櫨園)

■ 聖蹟巡拝 (ご生家方面、木綿崎山方面)

聖蹟巡拝は、教祖様ゆかりの地を訪れ、教祖事蹟への理解を深めることを願いとして実施している。

六月二十六日には、本科生・特科生合同で教祖様のご生家方面へ赴いた。往路では大谷の荒神社、早馬神社、西側の墓地(金光家遠祖歴世親族家族之奥城)などを巡り、ご生家まで歩いた。ご生家では教祖様直筆の神名書付、天地書附など貴重な品々を拝見させて頂き、奥城にも参拝させて頂いた。そして復路では、教祖様実父である十平様が幼少の教祖様を背負って参ったとされる泉勝院を参拝し、ご住職の延暦寺での修行時代の貴重なお話を拝聴させて頂いた。その後、占見村の氏神である大宮神社へも参拝した。

また、六月十八日には特科生が、六月二十四日には本科生が二グループに分かれて、教祖奥城や立教聖場、歴代教主奥城をはじめ、小野邸跡や絵師迫

墓地など、木綿崎山周辺の聖蹟を巡った。
学院生は大谷村、占見村の聖蹟を興味深く巡拝し、教祖様の時代に思いを馳せていた。



ご生家参拝

■ 平和学習

学院では、世界真の平和実現の祈りを新たに、具体的な取り組みにつながることを願い、毎年、平和学習を行っている。本年は七月十二日に、戦後八十年を迎えた被爆都市ヒロシマを訪れ、一日かけての平和学習を実施した。ヒロシマに到着後、広島平和記念公園内の慰霊碑を巡拝し、原爆の子の像に、この日に向けて学院生が平和への祈り

を込めて折った折り鶴を捧げた。また、原爆供養塔では、原爆で亡くなられた多くの御霊様を偲んで、祖先賛詞を奉唱した。その後、被爆体験証言者からの被爆体験談を拝聴し、平和記念資料館の見学をした。午後からは、第八十回金光教広島平和集会(原爆死没者慰霊祭、吉備舞、被爆体験継承者・被爆体験者の発表、金光学園中学生による平和学習発表)に参加した。

初めて広島平和記念資料館を訪れる者も多く、当時の様相を物語る資料や、八十年の年月を経て今なお語り継がれる被爆体験者の思いに触れて、戦争の恐ろしさ、核兵器のもたらした悲惨さを感じると共に、信仰者として慰霊と平和への祈りを持って、そのことを後世に正しく伝えていくことの大切さを感じたようである。



金光教広島平和集会

特科生卒業



特科・卒業証書授与式

六月十五日に入学した特科生八名は、一カ月間及び学院修行を進め、七月十五日に卒業した。学行では、教典ゼミ・祭式・祭詞等を受講し、修行では本科生の班に加わって、参拝、洒掃、炊事等を行じ、奉仕のお役にも当たった。教主金光様の御取次を頂き、御霊地のお徳の中で、修行に取り組み、教師としての基礎的素養を習得し、それにここから御用に立たせていただく心構えができたようである。

また、先に入学をした本科生とともに修行し、互いに研鑽でき、たこと、は、大變ありがたいことである。ここからの御用成就を祈念する。

金光様ありがとうございます



福岡県・合衆教会
竹内 典子

金光教のことをもっと知りたい、金光様の御取次を頂きたい、ご霊地のお徳にじっくり浸かりたいという長年の夢が、家族をはじめ、たくさんの方々の祈りを頂いて、六十八歳での学院特科入学という形で実現しました。

真夏のような暑さの中、予想以上のハードスケジュールでしたが、金光様をはじめ、皆様からの厚い祈りを頂いて、本科生や職員の先生方にお世話話になり、卒業させていただくことができました。心より御礼申し上げます。

学院修行を通して、これまで、ご神前を簡単に扱っていたことや、食物へ対する感謝が足りなかったことなど、様々なことに気づかされ、反省しました。授業では、教祖様のことをはじめ、教義や教団のことなどたくさん教えていただき、ありがたかったです。そして、同じ志を持つ者として、特科生は勿論、本科生を含め、祈り合い、励まし合い、笑い合いながら、過ごすことができ、たくさん信心の話ができたことは、本当に楽しく宝物のような貴重な体験でした。

ここから特科生は、各々の持ち場立

場で、御用を頂くこととなります。少しでも神様のお役に立たせていただけるように精進させていきたいと思います。

学院生活を振り返って



静岡県・新居教会
加藤 美菜子

学院入学時の私は「一カ月無事に修行をさせていただけるだろうか」「複数の持病を抱える私は、みなさんの足手まといになるのではないか」という心配がありました。

しかし、本科生のみなさんが、慣れない生活に戸惑う私たちに明るく優しく丁寧に接して下さり、また、特科生のみなさんとは「必ず全員で卒業しよう」と励まし合って、レポートや祭式の自主練習に取り組み、お道の仲間として共に修行させていただくことができました。



特科・教話実習

きました。

学院生活三日目に、心配していた持病による発熱で一日休むこととなりましたが、ある方は、金光様にお届けをしてくださり、またある方は、祈りを込めた御神米を下さり、そういうみなさんの思いに触れ、私の中にありがたいうような気持ちが溢れてきました。その思いのまま部屋で一人神様へ御祈念していると、自然と熱も下がってしまいました。様々なお繰り合わせの中でおかげを頂き、その後も体調を崩すことなく、卒業の日を迎えることができました。ご霊地のお徳の中で、神様への向き合い方を見つめ直すきっかけを頂き、これらすべてが、私に必要なこととして神様が与えてくださったのだと感じています。

学院生活で体験したことや感じたことがこれからの私の信心の糧になるよう、一層神様に心を向けていきたいと思えます。かけがえのない一カ月のありがとうございました。



特科・授業風景 (祭式)

学院生の声!

願われて祈られての学院生活



兵庫県・松原教会
増井 光雄

七十三歳の私が、右半身のしびれなどの持病を抱えながら学院本科入学を願ひ、ご時節を頂き、多くの方に祈られて今日を迎えています。誠に勿体なく有難いことと、御礼申し上げます。

入学当初は、同期生と年齢差があり、授業、洒掃などについていけるか不安でしたが、先生や同期生にお世話になり、助けられ、ここまで過ごさせていただけました。学院での修行は、本部広前でのご祈念の先唱をさせていただけることや、いつでも金光教や神様について話しあえることなど、見ることに聞くこと動くこと全てが新鮮で、新たな喜びや気づきに感激しています。

健康面でも、食事や睡眠など規則正しい修行生活の中で、少し重めであった体重は十数キロ減り、深夜のトイレも減り熟睡できるようになりました。何よりも杖なしで本部広前へ参拝ができ、洒掃や作業等も元気にさせていた

だけているのは、ご霊地のお徳を頂いてのことだと感謝しております。生かされて生きる世界、神様の愛情に満ちあふれた世界を大事に受け止め、神様を使う氏子から、神様に使われる氏子へとお育ていただけよう、ここからも修行に励み、成就させていただきたいと願っております。



自主活動 (卓球大会)

考えさせられる日々の中で

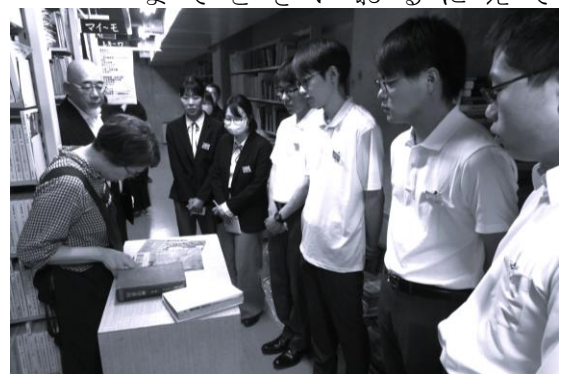


愛知県・熱田教会
鈴木 守春

学院に入学して約三カ月が経ちました。ここまでの修行生活を振り返ると目まぐるしい日々の連続でした。洒掃ひとつにしても覚えることが多く、入学当初は、OBの方々が教えてくださるままに無我夢中で取り組みました。少し慣れてくると、時間の限り丁寧にすることを心がけるようになりましたが、徐々に今日はこれくらいいいかという思いも湧いてきます。その気持ちをグッと堪え、怠け心と戦いながら日々の洒掃に取り組みせていただいています。また、授業では、「神様」や「信心」といった、これまでの生活の中で、よく耳にし、あたりまえのように使っていた言葉について、改めて問われることが多く、深く考えさせられる日々です。

ここまで、いろんな苦悩や葛藤がありながらも、神様に心を向けさせていただく中で、様々な気づきや学びを頂くことができ、充実した時間を過ごさせていただいております。これからも、ご霊地で過ごせるありがたさにお礼を申し、天地のはたらき、おかげに気づ

かせてもらえ
る私に
なれる
ようお
育てい
ただき
たいと
願って
おりま
す。



図書館見学

令和7年度教区別入学者数

